

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100099		
法人名	有限会社保泉商事		
事業所名	グループホーム花みずき		
所在地	甲府市上阿原526番地1		
自己評価作成日	平成28年9月20日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来9年半となります。体操、レクリエーション 季節折々の行事 誕生会での手料理や余興など利用者は静かで楽しい生活を過ごしております。またボランティアの皆様による活動で楽しい日々を過ごしております。  
当ホームの畑では ジャガイモや野菜など育てて収穫を味わっております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年10月12日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、甲府市郊外の大型店が並ぶ国道から20mほど入った住宅街の中にある。木造平屋造りの1ユニットで、各居室と共有部分にウッドデッキが付いており、ゆったりとした空間を作りだしている。利用者は自由に外気浴や通る人とデッキ越しでの会話を楽しむことができる。開所から9年を過ぎ、地域に溶け込み、地域に支えられる関係が築かれ、利用者の豊かな生活に結びついている。職員は利用者一人ひとりの現況や意向をしっかり把握して、その人のペースに合わせた会話や言葉かけを行っている。ベテランの職員ばかりで、支援する立場、支援を受ける立場を感じさせない家族的で自然な雰囲気の中、利用者は穏やかで安心した生活をしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざして、いつでも、どこでも、だれにでも」を理念に掲げ 地域の中で温かい介護サービスを目指している。	全職員が理念を十分に理解し、頭の中に入っている。個々の意識を高めるよう理念を玄関・台所に掲示し、朝礼や月1回のミーティング会議でも理念に沿った支援とは何かを繰り返し話し合い、共有している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に参加している。文化祭に参加したり 夏には祭りに招待したりして地域の子供たちへ楽しんでいただいたり、ご近所の方から果物やお花の差し入れをいただいで交流している。	自治会に加入し、地域の文化祭へ参加し、出品もしている。近隣のお寺での「灌仏会」(花祭り)法要にも参加している。事業所の夏祭りには地域の方を招き交流に努めている。近隣に住む職員を通して日常的に子どもたちが遊びに来ている。また、お花や果物等を頂くこともあり、地域と自然なお付き合いができています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の希望で施設の案内をしたり、夏祭りのご招待し、子供たちに楽しんで頂いております。 地域の文化祭では参加させて頂いております。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回 運営推進会議を開催し、サービスの向上に努めている。有識者 元施設長 地域の自治会長 包括の幹部 いろいろご意見を伺いサービスに参考 向上に活かしている。	2か月に1回、開催している。出席者から、防災について具体的な助言や、家族会の開催希望や、保育園児との交流など積極的な意見が出され双方向的な会議となっている。夏祭りの際に家族会を開き、保育園児との交流も計画を進めるなど会議での意見の反映に努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	甲府南東地域包括センターには、日頃から連絡を密に事業所の実情やご家族の対応やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら ご相談して前向きに進んでいる。	運営推進会議の議事録は必ず管理者が市担当者に直接届け、介護保険更新の手続き時などでも会い、情報提供に努め、事業所の実情を伝えている。また、災害訓練や職員の処遇改善についても指導をもらうなど良好な関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝、夕、のミーティングには、管理者、職員が身体拘束について話し合い 皆で注意をしている。例えば強い口調の防止やスピーチロック の注意を促している。	全職員は身体拘束をしないケアについて正しく理解している。スピーチロックについては、管理者から具体的に説明し注意しているが、不適切な言葉や声のトーンなど、気づいたことを職員間で注意し合える環境である。外に出たがる利用者につき添ったり、見守ったりしているが、状況によっては必要に応じて、やむなく玄関を施錠することもある。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝、夕、のミーティングには、管理者、職員が資料などで虐待の学習をしている。特に言葉の暴力など毎日の予防に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学び、職員や利用者のご家族等にその活用を説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時契約書及び重要事項説明し、質問を受け、また 掲示して疑問点等をその場で説明し、理解・納得して頂いている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、要望を聞いて運営している。運営推進会議でグループホーム経験者の方々のご意見を伺い反映している。	運営推進会議出席者から家族会の開催を望むとの意見・要望が出され、直ぐに家族会を開催し家族からの意見を聞く機会を設けている。本人からは食べ物の希望、外出先の希望などがあり季節行事に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕、ミーティングなど職員が直接意見や提案を話してくる。備品の購入希望など遠慮なく言ってくれる。	職員は、ミーティングや朝礼、引継ぎの際に、管理者に希望・要望などを提案している。利用者の食事時間帯の組み方、備品の購入や備品の機能・品質などの提案・希望が出され、シフトを工夫するなどして提案を取り入れた。給金アップの希望も本部に申し入れ、反映できることとなった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じて、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、職場環境・条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に施設内外の研修に参加するようすすめている。都度問題が起きた場合は職員が勉強出来る様環境を提供している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	甲府南東地域包括センター及びグループホーム協会 関係の集まりに参加して相談し前向きにサービスの向上に取り組んでいる。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や混乱、周囲からのストレスを考慮し、優しく丁寧な言葉と温かみのあるスキンシップで話しやすい雰囲気を作り、本人の表情や態度、話の内容などから感情を理解し、受容の態度で接し思いに共感しながら、寄り添う姿勢で安心を確保できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちになり、介護の疲れやストレスをためないように、認知症を正しく理解して頂き、安心して相談できるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の面談、紹介のケアマネージャー、病院のソーシャルワーカーや医師・看護師・理学療養師の方々、施設の往診医・看護師の意見を、施設の管理者・CM・介護職員とで検討しながら見極め、必要としている支援や他のサービス利用も含めたケアプランを作成している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした暮らしのリズムの中で、本人の持っている力を暮らしに活かしながら、安心できる仲間作りや馴染みの関係を築けるよう支援している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			実践状況	外部評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が絆を大切に感じられるよう、居室にご家族の写真を貼ったり、日常の会話の中にご家族の話題を入れたり、イベントなどに参加をお願いして、いつでも互いに温かい気持ちで接することができる雰囲気作りを行いながら、ご家族と連携を取り共に支えていけるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人、趣味の仲間、親戚やご家族の面会、ご家族と県外への墓参り、入院されていた病院へ訪問、その他社用車で、以前の住まい周辺へのドライブ、年会行事のお花見や紅葉狩り等で小瀬スポーツ公園へ、夏祭りでは近所の方や自治会の方等と一緒にいき、関係が途切れないように努めている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、これまでの関係継続への支援に努めている。家族、親族、長年の無尽会の仲間の来訪が度々ある。将棋が趣味の利用者のところには定期的にボランティアが訪れ相手をしてくれて楽しんでいる。お墓参り、自宅付近の様子を見に行くなど本人が大切にしている習慣に沿った支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が互いに支え合えるよう支援に努めている	利用者様の身体レベル・認知度・年齢・相性などを把握し、職員が仲に入り話題の提供や家事などの役割、レクでの集団行動を行いながら、孤立せずに関わりあえるように支援し、皆さんが大切な仲間の一員である事を感じ支え合えるよう支援し努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への転居され、フォローの場合は電話での相談や訪問し相談や支援に努め、これまでの関係を大切にしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の談話の中や、定期的に対面で本人の希望・意向をうかがい、困難な場合は、表情や態度などからも読み取り、本人本位になるようご家族の意見も含め検討し、利用者様一人ひとりのその人らしい暮らしの支援ができるよう検討し努めている。	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの希望・意向を聞くように努めている。また、月1回管理者が本人から聞き、ケアマネジャーもケアプラン作成時に意向・希望を聞いている。希望を表すことのできない利用者については、表情や動きから汲み取っている。日々の職員の気づきは共有し、思い・意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご自宅・施設・病院等を訪問し、事前調査を行い、本人・ご家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等をうかがい、入居後も本人からの話や、ご家族の来訪時にもうかがいながら、詳細に把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方やバイタルチェック(血圧・体温・脈・呼吸・顔色・排泄・食事摂取量等)や心身状態・言動など変化を見逃すことなく観察、記録し共有する事で現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりに担当介護員を決めてあり、変化があった場合には、CMが問題を提起し、必要に応じて医師・看護師・ご家族の意見をうかがいながら管理者・CM・介護職員で検討し意見交換やアイデアなどを出し合い、現状に即した介護計画をさくせいしている。	入居時、ケアマネジャーが本人・家族に対しアセスメントを行い、仮プランを作成後、担当介護職員を決める。1か月後、本人の様子やニーズを把握し、全職員のアセスメント記録や意見を反映したプランをもとに、サービス担当者会議で担当職員、看護師、管理者、家族の意見を聞いてケアプランを作成する。その後、見直しは3か月に1度行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録やケアの実践・結果・気づきや工夫を、介護記録に記録し、意見交換も含めて職員間で情報を共有し、介護の見直しに活かしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
				実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況変化に対応して、その都度病状に対応している。 設備等は不足しているが細かく柔軟にサービスの多機能化に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアは、将棋や大正琴など来所して頂いている。 また 読み聞かせやカラオケなど地域の方などご協力を頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設は協力医院 医師の方が隔週で往診にきている。 体調不良時は直ぐに主治医連絡し、指示を仰いでいる。	本人・家族が希望する医療機関で診療を受けている。ほとんどの利用者は協力医院の医師の往診(2週に1回)にて診療を受けている。 他の医療機関への受診は家族が対応している。その際、医療情報は共有し記録もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回日勤で健康状態の観察や機能訓練をしている。夜間も対応して頂いている。利用者の健康管理やメンタルケアも看ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は医療機関と密に連絡を取り合い 情報交換をしている。早く退院出来る様 必ず面会に訪問して、状況を把握出来る様努めて病院と良好な関係を構築している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が状況に応じて協力医院 看護師 ケアマネと連携し、ご家族 本人と話し合いを行っている。	入居時、家族と本人に医療連携体制が十分に整っていないため看取りの対応はしていないことを説明している。日々の暮らしの中で利用者、家族のニーズは「最後までここで過ごしたい」、職員は「看取りまで支援したい」との思いに至っているため、事業所として看取り支援に向け、必要な体制づくりの取り組みを検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて 全職員は応急手当や初期対応の訓練を行っている。消防署の指導も受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に2回 毎年行っている。その1回は夜間想定で、内容は初期消火・避難訓練・通報訓練を行っている。 消防署・中村ポンプの指導を受けている。	年2回、火災訓練を行い初期消火、通報訓練、避難経路の確認、避難方法など消防署と消防用設備会社の指導を受け実施した。夜間専用職員と夜勤を担当する職員は、台所からの出火を想定し、通報から避難までの一連の動きを実際に行った。利用者の居室出入口には防災頭巾が掛けてあり、直ぐに手が届くように工夫している。	災害時に、利用者・全職員が速やかに避難できるよう、その方法を現場で徹底して体得していくことを期待したい。そのためには、出火場所や避難経路を固定化した訓練ではなく、避難経路を見直したり、場面に合わせた多様な場面をシミュレーションした訓練と、防災頭巾にタオルをいれておくなどの工夫を期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬している。利用者の誇りや個人の生活リズムやプライバシーを守りつつ、今日までの生活歴を尊重しつつ言葉づかいや接遇に気を付けている。	職員は利用者の一人ひとりの生活歴を把握し、その人を尊重した言葉遣いを心掛けている。排泄支援や入浴、着替えなどの支援の際も精神面に配慮した対応をしている。利用者の気持ちを大切に考えて、さりげない誘導や声かけをするよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつも本人の思いや希望を話せるよう時間を作っている。分かりやすい言葉で説明し 自己決定が出来る様、納得が出来る様促している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴やペースを尊重して利用者が過ごしやすい環境を作り過ごして頂いている。馴染みの家具や衣類や食器など 希望に添って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回 訪問美容院を受け パーマやカット 希望に応じている。 また本人希望時は化粧品を使用して身だしなみやおしゃれに支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食べたい希望メニュー伺い出来るだけ叶えている。 下ごしらえ、盛り付けなど 手伝い頂いている。	利用者の力に合わせて、下ごしらえ、盛り付け、片づけなど職員と一緒にやっている。昼食は外部業者よりメニューと食材が配達され、それに沿って調理を行っている。朝夕は調理済みの副食(レトルト)だが、ご飯と味噌汁は作っている。利用者の希望で、お寿司、お好み焼き、外食などその都度、対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は毎回チェックして記録している。水分については毎回食事中や おやつ中に声かけを行い飲んで頂いている。またゼリーや羊羹など手作りの水分の多いおやつを差し上げて			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけて、誘導し、口腔ケアを行っている。義歯の方も外して丁寧に洗うようにしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ・パットを使用している方が多い。一人一人の排泄間隔を把握してトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を記録し、利用者一人ひとりに合わせた個別の排泄支援を行っている。トイレ誘導は、言葉かけやタイミングを工夫し、尊厳を損なわないよう配慮している。ひとり一人の状態に合わせたポータブルトイレを使用し、夜間のみ使用や自力で排泄できるための補助として居室に置いて、排泄の自立を目指した支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は体操 規則正しい食事と睡眠をとる。とくにわが施設はねばねば食事 ころろやオクラ モロヘイヤ 山芋 などなど食品で便秘を解消をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1週間に2回ゆっくり入って頂いている。利用者が嫌がる様だった無理をせずに後日入るように予定をしている。それ以外に希望をしたら応えるようにしている。失禁等があった場合は入る事がある。	毎日、入浴の準備はしており希望があれば毎日の入浴も対応できるが、入浴を嫌がる利用者が多く週2回の入浴となっている。嫌がる場合は言葉かけを工夫したり、希望であれば夜間の入浴にも対応しているが強く拒否する場合は足浴、清拭をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間 気持ち良く安眠出来る様に日中体を動かしたり歌を唄うなどして程よく疲れて眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体が薬剤師の薬の説明書をよく見て薬の目的や副作用、用途や容量について理解している。薬の変更があった場合は速やかに周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長く居るとだんだん役割分担ができる。 洗濯を干す方 たたむ方 食事盛り付け 配膳の得意な方係りが決まって来ているがレベルが下がり出来る事が少なくなったがレクレーションではラジオ体操やカラオケなどで歌を唄う事の好きな方々など楽しみごとを多くし支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は出来るだけ近くへ散歩に出かけ 牛乳などの買い物へ出かけている。歩行困難な利用者は車椅子で施設の回りを散歩している。	利用者の、その日の希望に沿っての外出は職員数の問題もあり全て対応することは難しい。日常的に散歩や買い物に出かけ、特別な外出は紅葉狩りなど家族も参加して楽しんでいる。以前は事業所ぐるみで遠方に出かける機会は多くあったが利用者の身体状況も重度化し、特別な外出の回数も減っている。	たとえ短時間でも戸外に出ることは利用者の五感刺激や気分転換になる貴重な機会としてとらえ、敷地内の散歩、庭先に出る、居室のウッドデッキでの外気浴など、本人や時々状況に応じて戸外に出て楽しめる支援を期待したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から必要程度金銭を預かり、施設で管理している。小銭程度は所持している。 外出した際ちょっとした買い物をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯はお一人所持していたが 頻繁に家族に連絡し、出ないと不穏になってしまわれるので事務所で預かり施設の電話をよく使用して頂いている。手紙の受け取りや差出しは施設が対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員が共有する食堂やホール、廊下等では、清潔感、照明、温度に配慮し快適に過ごして頂いている。トイレや浴室に関しては、清潔と臭いにも配慮している。	玄関には、利用者の描いた油絵が飾られ、ホールの壁には吊るし飾りが季節感豊かに並んでいる。食堂に置かれた3つの丸テーブルからは家庭的な雰囲気が感じられ、利用者が家族のように寛いだ会話を楽しめるよう工夫されている。地域の方から届けられたカブトムシが置かれたホールのソファに座ると、行きかう人やぶどう棚が見え、季節や暮らしが感じることができよう配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホールには、入居者一人一人の椅子を用意して居場所をしっかりと作りその中で自由に過ごすことが出来る様配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔からの馴染みの家具や椅子テーブル等を置き使い慣れた日用品や大切な子どもや孫の写真 手紙など、好みのものを用いて過ごしている。	居室はクーラー、カーテン、洗面台が備えてある。使い慣れたソファ、友人からのプレゼントの品や家族、友人の写真などが飾っており、その人らしい部屋に整えてある。各居室からテラスに出ることが出来る自由で外景を観ることができ、落ち着いて過ごすことができる環境である。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部では利用者が場所がよくわかるようトイレの矢印や表示や看板を用いている。トイレや浴室など安全に利用出来る様広く工夫されている。			